

NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY



GUIDE
BOOK
2022 - 2023



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

— Outgrow your limits —

無限の可能性、ここが最先端

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学は、自ら新たな課題に挑戦し飛躍を遂げようとする人が集うとともに、それを可能にし、常に成果を挙げられる環境があります。そして、大学を構成する学生・教職員に加え、学問領域や組織形態などあらゆる要素がそれぞれのワクを超えて成長し、発展をめざしています。

人が研究を育み、研究が人を育む

奈良先端大は、1991年に学部を持たない新構想の国立大学院大学として誕生しました。現代社会の基盤となる情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学とそれらの融合分野に特化した本学には、創設以来、優れた研究者が国内外から集まり、世界トップレベルの科学技術研究を追求し、高い評価を獲得してきました。例えば、2013年度から始まった文部科学省「研究大学強化促進事業」の対象として全国22機関の1つに選ばれ、研究力の強化をさらに推進しています。

科学技術研究の目的の1つは、社会や人々の生活をより快適で喜び溢れるものにするために、さまざまな問題・課題の解決につながる発見・イノベーションを生み出すことでしょう。例えば、現在進行中の新型コロナウイルスとの戦いでは、多くの研究者がその最前線に加わっています。また一方で、有史以来、科学者が積み重ねてきた研究は、私たちの知の地平を拡大し、知識を蓄積する人類の文化的な営みでもあります。

最先端の科学技術研究を教育の場とするのが奈良先端大です。研究に取り組む中で、最新の知見を学修するだけでなく、発見や開発が求める多面的な能力、スキルを身につけることができます。また、科学技術の研究に国境はありません。文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の対象にも選ばれている奈良先端大では、現在、世界38の国や地域から留学生を受け入れており、在学生の4人に1人は留学生です。共に研究に取り組み、アイデアや成果を共有、議論しながら実践的な英語能力・コミュニケーション能力を磨くことができる国際的な環境も奈良先端大の特徴です。

奈良先端大は、昨年、創立30周年を迎えました。本学の科学技術研究の成果には、すでに実用化されて私たちの生活に役立ったり、教科書を飾ったものも少なくありません。また、奈良

先端大で修士、博士を取得した卒業生は、それぞれ9,003名、1,808名を数え、それぞれが国内外の様々な分野で研究者・技術者として活躍しています。加えて、本学で育った多数の若手研究者が、全国の主要な大学の教授・准教授として研究や教育で力を発揮しています。

これまでの成果を基盤とする奈良先端大の新フェーズの準備として、2018年には全学を単一の先端科学技術研究科に統合する大改革を行い、異なった専門分野が結集してSDGsなど世界的な課題の解決に挑戦するイノベーションと人材の創出を推進するための体制を整えました。さらに、学長就任にあたって「先端科学技術で未来を共創する大学」を目指す学長ビジョン2030を策定し、公表しました。科学技術研究の最先端を追求し、その中で次世代のリーダーを育成するというミッションをとおして、奈良先端大は未来に貢献するため前進を続けます。

学長 塩崎 一裕



目次

学長挨拶	1	物質創成科学領域	11
目的/理念/運営体制/沿革	2	研究事業情報	12
先端科学技術研究科	3~4	国際交流	13~14
教育プログラム	5~6	研究施設	15~18
学生情報	7~8	組織・財務	19~20
情報科学領域	9	キャンパスマップ	21~22
バイオサイエンス領域	10		

※表紙「年輪の矢」について … 大樹が幾層もの年輪を有するように、地道な努力と研鑽の積み重ねで、科学技術の未来を切り拓いてほしいという願いを込めました。

目的

学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与することを目的としています。

理念

- 先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進
- 国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成
- 社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成
- 社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進

運営体制

学長	塩崎 一裕		
理事	小笠原 司	太田 淳	小谷 直和
	土井 美和子	野口 哲子	
監事	西村 昭	春本 晃江	
経営協議会委員			
学長	塩崎 一裕		
理事	小笠原 司	太田 淳	小谷 直和
	土井 美和子	野口 哲子	
管理部長	山本 哲也		
学外有識者	独立行政法人国立高等専門学校機構 奈良工業高等専門学校長 後藤 景子 株式会社Integral Geometry Science取締役 小山 浩 特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー 振興会議 理事長 田中 隆治 塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功 日本赤十字社 理事 板東 久美子 株式会社国際社会経済研究所 理事長 藤沢 久美 国立大学法人筑波大学 副学長・理事(国際担当) ベントン・キャロライン 国立大学法人大阪大学 名誉教授 宮原 秀夫		
教育研究評議会評議員			
学長	塩崎 一裕		
理事	小笠原 司	太田 淳	小谷 直和
	土井 美和子	野口 哲子	
先端科学技術研究科研究科長	梅田 正明		
先端科学技術研究科副研究科長	井上 美智子		
先端科学技術副研究科長	河合 壯		
情報科学領域長	(井上 美智子)		
バイオサイエンス領域長	(梅田 正明)		
物質創成科学領域長	(河合 壯)		
情報科学領域副領域長	安本 慶一		
バイオサイエンス領域副領域長	別所 康全		
物質創成科学領域副領域長	浦岡 行治		
総合情報基盤センター長	飯田 元		
遺伝子教育研究センター長	(梅田 正明)		
物質科学教育研究センター長	(浦岡 行治)		
データ駆動型サイエンス創造センター長	船津 公人		
デジタルグリーンイノベーションセンター長	出村 拓		
保健管理センター所長	寶學 英隆		
企画・教育部長	松山 篤		
研究・国際部長	高橋 稔		

沿革

- 1991年10月 奈良先端科学技術大学院大学設置
情報科学研究科設置
附属図書館設置
- 1992年 4月 バイオサイエンス研究科設置
情報科学センター設置
- 1993年 4月 遺伝子教育研究センター設置
情報科学研究科(博士前期課程)第1期生受入れ
- 1994年 4月 バイオサイエンス研究科(博士前期課程)第1期生受入れ
- 1994年 6月 先端科学技術研究調査センター設置
- 1995年 4月 情報科学研究科(博士後期課程)第1期生受入れ
保健管理センター設置
- 1996年 4月 バイオサイエンス研究科(博士後期課程)第1期生受入れ
- 1996年 5月 物質創成科学研究科設置
- 1998年 4月 物質創成科学研究科(博士前期課程)第1期生受入れ
物質科学教育研究センター設置
- 2000年 4月 物質創成科学研究科(博士後期課程)第1期生受入れ
- 2002年 4月 情報科学研究科情報生命科学専攻設置・学生受入れ
- 2003年10月 知的財産本部設置
- 2004年 4月 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学設立
産官学連携推進本部設置
- 2009年 9月 男女共同参画室設置
- 2009年12月 国際連携推進本部設置
- 2010年 7月 総合情報基盤センター設置
- 2010年 8月 先端科学技術研究推進センター設置
- 2011年 4月 情報科学研究科情報科学専攻設置・学生受入れ
バイオサイエンス研究科バイオサイエンス専攻設置・学生受入れ
- 2013年 4月 キャリア支援室設置
- 2013年10月 研究戦略機構設置
- 2015年 4月 戦略企画本部設置
教育推進機構設置
研究推進機構設置
- 2017年 4月 データ駆動型サイエンス創造センター設置
- 2018年 4月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻設置・学生受入れ
(情報科学研究科・バイオサイエンス研究科・物質創成科学研究科を統合)
- 2021年 1月 デジタルグリーンイノベーションセンター設置
- 2021年 4月 地域共創推進室設置

Outgrowing Limits

「成長する大学」奈良先端大

奈良先端大は、最先端の科学技術やその融合分野の新たな展開を先導できる人材の育成に向け、2018年4月に生まれ変わりました。

本学は、学生が社会、時代の要請にあった融合分野や新しい研究分野への挑戦を容易にするため、これまでの「情報科学」、「バイオサイエンス」及び「物質創成科学」の3研究科を統合し、「先端科学技術研究科」となりました。

奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY



2018年4月、これまでの情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学の3つの研究科を統合し、先端科学技術研究科が誕生しました。

- これまでの研究科間の垣根をなくすことで、関連する研究分野の教員が結集して最先端科学技術教育を行える柔軟な教育体制を構築します。
- 学生の興味、意欲にきめ細やかに対応するため、履修科目選択に自由度を持たせた教育を実現します。
- 高度な専門性を修得させるための5つの「教育プログラム」を設定します。
- 他の分野を学ぶのに必要な基礎・専門知識を学べる仕組みを導入し、大学・高専専攻科で身に付けた専門性をベースとして、他の専門分野への挑戦を可能とします。
- 社会実装までを想定して社会ニーズに基づく問題の解決に取り組むPBL (Project Based Learning) 形式の演習を実施します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

博士前期課程

- 求める学生像

国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求めます。特に、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人、旺盛な好奇心と何にでも挑戦する実行力を持った人を積極的に受け入れます。

- 入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

博士後期課程

- 求める学生像

国内外を問わず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求めます。特に、これまでに修得してきた深く広い専門知識を、人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い先端科学技術分野での活躍を志している人を積極的に受け入れます。

- 入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

先端科学技術研究科の特色

優秀な学生への豊富な支援プログラム

短期修了制度：優れた研究業績を修めた者は、博士前期課程は1年以上、博士後期課程は博士前期課程と併せて3年以上の在籍で修了可（2022年3月現在の実績：博士前期課程192名、博士後期課程340名）。

大学院生が生活に不安なく学習や研究に没頭できるように、成績優秀な学生は、TA、RA雇用を通じた経済支援を行っています。

TA（ティーチングアシスタント）制度：博士前期課程2年次以上の学生を対象に、講義資料の収集・整理・作成補助、レポートの採点補助など大学院教育の一部作業に参加させて経済的自立を支援。

RA（リサーチアシスタント）制度：優秀な博士後期課程学生を研究プロジェクトの研究補助者として雇用。

行き届いた学生への生活・修学・就職支援

キャンパス内には、学生宿舎を用意しており、研究活動に十分な時間を確保するための一助となっています。また、希望者のほとんどが、日本学生支援機構の奨学金を受給しています。外国で行われる国際会議に参加するための旅費の援助制度も整っています。学術交流協定校は全世界に広がっており、留学機会にも恵まれています。

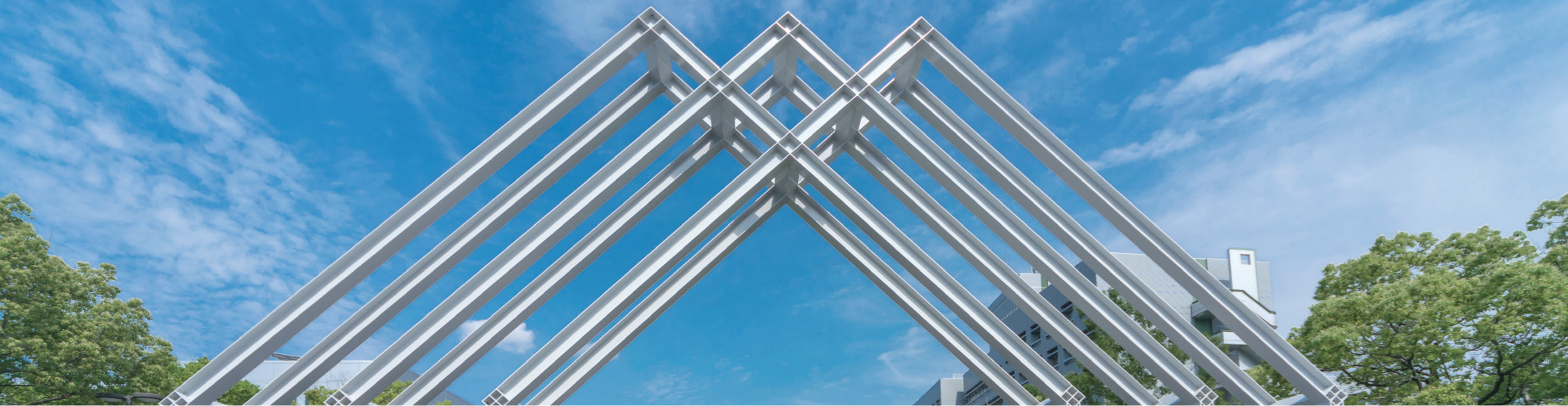
なおキャリア支援室を通じた就職情報の提供や、学生個人レベルでのきめ細かなアドバイスを行っています。

卓越した研究業績とそれを支えるオープンで活気に満ちた多彩な教授陣による優れた研究環境

国際的に活躍している教授陣、各分野で囑望されている若手教員を擁し、卓越した業績をあげています。科学研究費補助金をはじめ競争的外部資金の獲得は、教員1名当たりでは国内でトップクラスです。学生に対する教員数の比率が高いため、きめ細かなマンツーマン教育を実現しています。最新の研究設備を完備し、十分な研究スペースで、心行くまで研究や勉強に打ち込める環境が整っています。

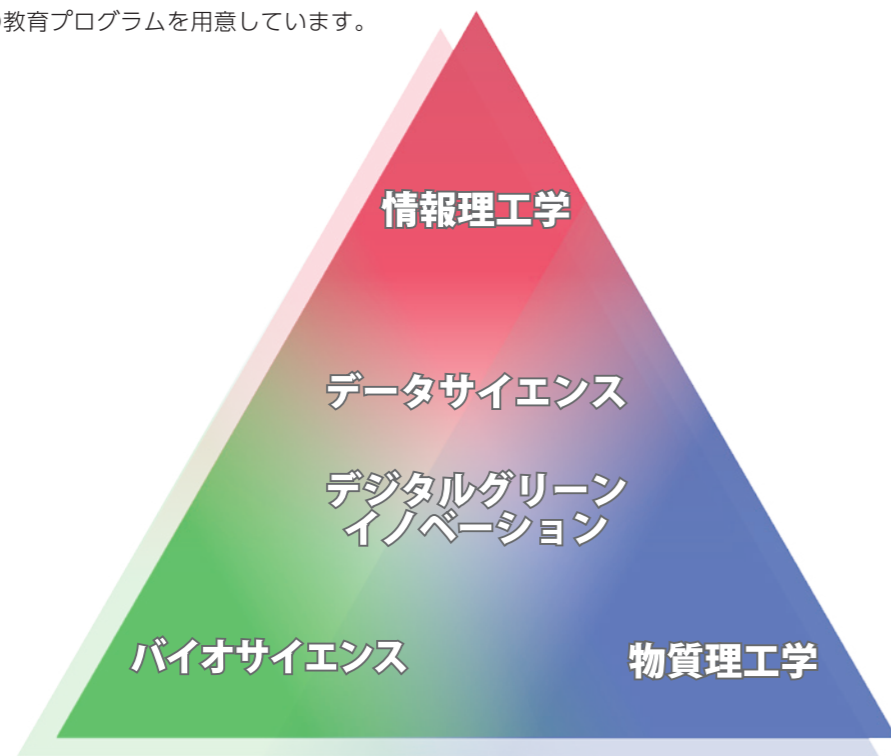
先端科学技術研究科

学生自身の希望進路に沿いながら高度な専門性を身につけるため、5つの教育プログラムを設置しています。学生はこのうち1つの教育プログラムを選択して科目履修を進めていきます。



5つの教育プログラム

本学では、次の5つの教育プログラムを用意しています。



研究室配属・指導教員決定後、指導教員と相談して、教育プログラムを一つ選択してください。

教育プログラム 領域	情報理工学 プログラム	バイオサイエンス プログラム	物質理工学 プログラム	データサイエンス プログラム	デジタルグリーン イノベーション プログラム
情報科学領域	○			○	○
バイオサイエンス領域		○		○	○
物質創成科学領域			○	○	○

■ 情報理工学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学)

情報科学を主体とするプログラムです。

コンピュータ本体及び情報ネットワークに関する技術、コンピュータと人間のインタラクション及びメディアに関する技術、ロボット等コンピュータを駆使する各種システムに関する技術など、広い視野と高度な専門性を備え、様々な分野で情報科学技術の高度化やその多面的な活用により、高度情報化社会を支える人材を育成します。

■ バイオサイエンスプログラム

授与される学位 修士・博士(バイオサイエンス)

バイオサイエンスを主体とするプログラムです。

動物・植物・微生物について、生命現象の基本原則から生物の多様性まで、幅広い分野の最先端の知識と技術を備え、環境・エネルギー・食糧・資源や健康・長寿等に関わる研究開発を通して、人類の発展と地球環境の保全に貢献する人材を育成します。

■ 物質理工学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学)

物質創成科学を主体とするプログラムです。

固体物性学、デバイス工学、分子化学、高分子材料、バイオナノ理工学などを横断する教育プログラムにより、物質科学に関する基礎知識と専門性を活かすための高度な知識を持ち、人類の豊かな生活の維持と社会の発展を支える次代の科学技術の担い手となる人材を育成します。

■ データサイエンスプログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学/バイオサイエンス)

情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。

情報科学、バイオサイエンス、物質科学に関わるデータ駆動型科学、AI駆動型科学の最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、蓄積された膨大なデータの処理、可視化、分析を通じてその奥に隠れた「真理」や「価値」を引き出して、次代の科学・技術の進歩や社会の発展に貢献できる人材を育成します。

■ デジタルグリーンイノベーションプログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学/バイオサイエンス)

情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。

社会・経済を支える、情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学の高度な専門性と、それに隣接する融合分野、とくにグリーン分野とデジタル分野を包含する融合分野を理解できる広範な素養を持ち、社会全体を見渡す俯瞰的な視点から物事を考え、社会においてグリーン分野とデジタル分野において発展を続けるデジタルグリーン科学技術の活用やイノベーションを担う人材を育成します。

Diversity

多様な学生

多様なバックグラウンドを持つ意欲のある国内外の学生が在籍

奈良先端大は学部を持たない大学院大学であり、出身大学等を離れ能動的に進路を選択した、高い基礎学力を有する学生や、社会で活躍中の研究者・技術者など、将来に対する明確な目標と志を持ち、各々の研究分野に対する強い興味と意欲を持った、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まっています。

先駆的な大学院教育プログラムを実施しながら、国際水準を踏まえたさらなる教育改革を進め、グローバルに活躍できる先端科学技術分野の人材を育成します。すべての学生が学部から大学院入学時点で研究室が変わることで、幅広い視野を身につけることができ、自然と融合領域研究が促されます。

世界で活躍する修了生

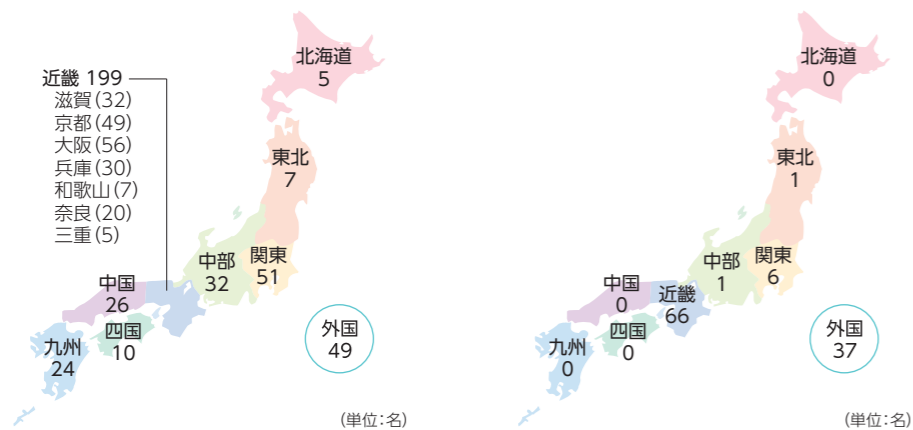
これまでに博士前期課程(修士)修了者9,003名、博士後期課程(博士)修了者(論文提出による博士学位の取得者を含む)1,874名を社会に送り出し、それぞれが社会の様々な分野で研究者・技術者等として活躍しています。(2022年3月31日現在)

出身大学・大学院などの地域

2021年度(10月)及び2022年度(4月)入学者

博士前期(修士)課程

博士後期(博士)課程



入学定員・収容定員・現員

(2022年5月1日現在)

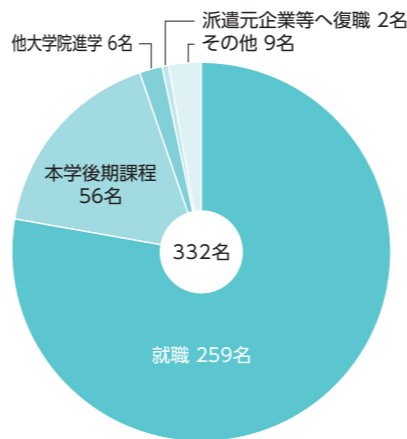
研究科名	入学定員		収容定員		現員								合計	女性の占める割合(%)
	博士前期(修士)課程	博士後期(博士)課程	博士前期(修士)課程	博士後期(博士)課程	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程					
					1年	2年	計	1年	2年	3年	計			
先端科学技術研究科	350	107	700	321	402(88)	360(70)	762(158)	114(29)	105(39)	147(40)	366(108)	1,128(266)	23.6%	
情報科学研究科	-	-	-	-	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	2(-)	2(-)	2(-)	0%	
バイオサイエンス研究科	-	-	-	-	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	3(2)	3(2)	3(2)	66.7%	
物質創成科学研究科	-	-	-	-	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	2(-)	2(-)	2(-)	0%	
合計	350	107	700	321	402(88)	360(70)	762(158)	114(29)	105(39)	154(42)	373(110)	1,135(268)	23.6%	

※赤字は、女性数を内数で示す。 ※現員数には、秋期入学者を含む。

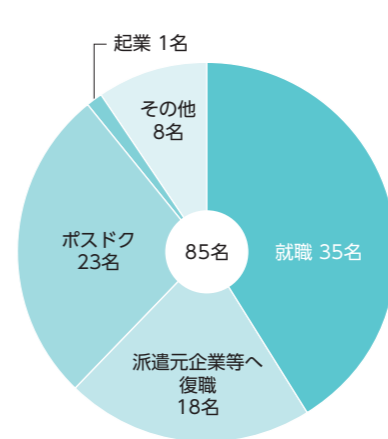
修了者進路・就職状況(2021年度修了者)

※令和3年度までの7教育プログラム別で集計

博士前期課程修了者(全研究科)

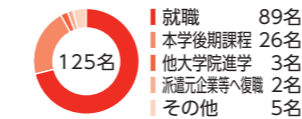


博士後期課程修了者(全研究科)



先端科学技術研究科博士前期課程

情報理工学プログラム



・就職先
アクセンチュア(株)/(株)NTTドコモ/関西電力(株)/(株)クボタ 他67機関

バイオサイエンスプログラム



・就職先
アーグレイ(株)/エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)/サラヤ(株)/シスメックス(株) 他52機関

物質理工学プログラム



・就職先
旭化成(株)/京セラ(株)/石油資源開発(株)/(株)デンソー 他42機関

情報生命科学プログラム



・就職先
(株)アマダ/(株)キーエンス/SOLI ZE(株)/日本ゼオン(株) 他1機関

バイオナノ理工学プログラム



・就職先
伊藤ハム(株)/花王(株)/京セラ(株)/小林製薬(株) 他20機関

知能社会創成科学プログラム



・就職先
朝日放送テレビ(株)/(株)イシダ/AGC(株)/マイクロンメモリジャパン(株) 他6機関

データサイエンスプログラム



・就職先
花王(株)/(株)島津製作所/(株)東芝/楽天モバイル(株) 他15機関

先端科学技術研究科博士後期課程

情報理工学プログラム



・就職先
任天堂(株)/(株)国際電気通信基礎技術研究所/大阪大学産業科学研究所/(株)MonotaRO/LINE(株) 他7機関

バイオサイエンスプログラム



・就職先
ロート製薬(株)/JCRファーマ(株)/Sunstar Group/三井化学シンガポールR&Dセンター/(株)ファーマフーズ 他6機関

物質理工学プログラム



・就職先
ウエスタンデジタル(同)/(株)SU MCO/TDK(株)/三菱ケミカル(株)/(株)メガチップス 他4機関

バイオナノ理工学プログラム



データサイエンスプログラム



・就職先
小林製薬(株)

キャリア支援室は、組織的な視点から、キャリア形成に関するさまざまなサポートを行っています。

キャリアサポートメニュー

- ・就職ガイダンス
- ・キャリア相談
- ・業界研究会・企業説明会
- ・キャリアアップセミナー等
- ・留学生や海外での活躍を目指す学生へのキャリア支援
- ・その他のサービス(図書貸出、求人情報提供など)

Research

その研究力で次代を切り拓く

本学は、国立大学法人評価委員会(文部科学省)が実施する第3期中期目標期間(4年目終了時)に係る業務の実績に関する評価において、「教育に関する目標」とともに「研究に関する目標」の達成状況が最高評価である「特筆すべき進捗状況にある」と評定されました。「教育に関する目標」及び「研究に関する目標」ともに最高評価を獲得した機関は全国89機関中、本学を含め2機関のみです。

情報科学領域

3つの教育研究分野にわたる20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、自由闊達に競争できる環境



情報科学領域では、Society5.0(仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会)の実現、SDGs(持続可能な開発目標)の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野における先端科学技術について教育研究を行っています。

コンピューティング(ソフトウェア・ハードウェア)、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の3つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。

コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成を目指しています。



研究室一覧

■ コンピュータ科学分野

- ・ コンピューティング・アーキテクチャ
- ・ ディペンダブルシステム学
- ・ ユビキタスコンピューティングシステム
- ・ ソフトウェア工学
- ・ ソフトウェア設計学
- ・ サイバレジリエンス構成学
- ・ 情報セキュリティ工学
- ・ 情報基盤システム学(協力)

■ メディア情報学分野

- ・ 自然言語処理学
- ・ 知能コミュニケーション
- ・ ソーシャル・コンピューティング
- ・ ネットワークシステム学
- ・ インタラクティブメディア設計学
- ・ 光メディアインタフェース
- ・ サイバネティクス・リアリティ工学

■ システム情報学分野

- ・ ヒューマンロボティクス
- ・ ロボットラーニング
- ・ 大規模システム管理
- ・ 数理情報学
- ・ 生体医用画像
- ・ 計算システムズ生物学
- ・ 計算行動神経科学(テニューア・トラック)

■ 教育連携研究室

- ・ コミュニケーション学
【日本電信電話(株)NTTコミュニケーション科学基礎研究所】
- ・ 計算神経科学
【(株)国際電気通信基礎技術研究所】
- ・ ヒューマンウェア工学
【パナソニック(株)】
- ・ シンビオティックシステム
【日本電気(株)データサイエンス研究所】
- ・ 光センシング
【オムロン(株)技術本部・知財本部】

- ・ 次世代モバイル通信
【(株)NTTドコモ】

- ・ 生体分子情報学
【(国研)産業技術総合研究所】
 - ・ デジタルヒューマン学
【(国研)産業技術総合研究所】
 - ・ 形式検証
【(国研)産業技術総合研究所】
 - ・ ネットワーク統合運用
【(国研)情報通信研究機構】
 - ・ 超高信頼ソフトウェアシステム検証学
【(国研)宇宙航空研究開発機構】
 - ・ データ駆動知識処理
【(国研)情報通信研究機構】
 - ・ 多言語ナレッジコンピューティング
【(株)富士通研究所】
 - ・ ロボット対話知能
【(国研)理化学研究所】
 - ・ マルチモーダル環境認識
【(国研)理化学研究所】
- ※[]内は連携機関名

バイオサイエンス領域

植物科学分野、メディカル生物学分野、統合システム生物学分野で構成

バイオサイエンス領域は、教育効果と機動性の高い教育研究の実現のために組織体制が改変され、現在、植物科学分野、メディカル生物学分野、統合システム生物学分野の3分野で構成されています。

植物科学分野は、植物細胞・個体が有する様々な生命機能の解明を目指す基礎研究から植物生産性増強、環境耐性増強など環境・資源・エネルギー・食糧問題等の解決に向けた応用研究まで、持続的発展が可能な社会の実現を目指した先端的な教育研究を行っています。

メディカル生物学分野は、動物細胞・個体が有する様々な生命機能の基礎研究から神経疾患、代謝疾患、ガンなど様々な疾患原因の解明による出口を見据えた応用研究まで、健康社会の実現を目的とした先端的な教育研究を行っています。

統合システム生物学分野は、生命現象をシステムとして捉え、細胞生物学および分子生物学を基盤とする実験的アプローチとシステム科学的アプローチの両面から追求する先端的な教育研究を行っています。また、従来のバイオサイエンス研究に、情報技術やナノ技術などの新しい手法・視点を導入し、革新的な新たな科学・技術の創造を目指しています。

研究室一覧

■ 植物科学分野

- ・ 植物発生シグナル
- ・ 植物代謝制御
- ・ 植物成長制御
- ・ 花発生分子遺伝学
- ・ 植物生理学
- ・ 植物免疫学
- ・ 植物共生学
- ・ 植物二次代謝
- ・ 植物再生学

■ メディカル生物学分野

- ・ 分子情報薬理学
- ・ 機能ゲノム医学
- ・ 腫瘍細胞生物学
- ・ 分子免疫制御
- ・ 分子医学細胞生物学
- ・ RNA分子医学
- ・ 幹細胞工学

- ・ 発生医科学
- ・ 器官発生工学

■ 統合システム生物学分野

- ・ 原核生物分子遺伝学
- ・ ストレス微生物学
- ・ 環境微生物学
- ・ 構造生命科学
- ・ 遺伝子発現制御
- ・ 神経システム生物学
- ・ バイオエンジニアリング
- ・ データ駆動型生物学

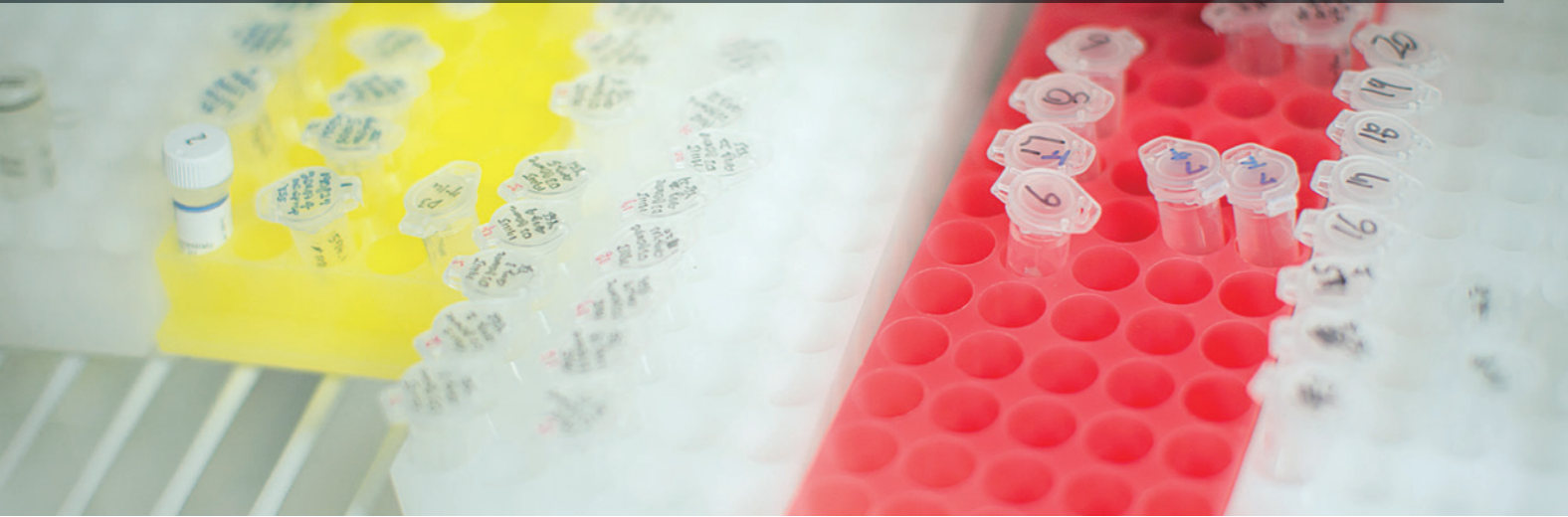
■ 連携研究室

- ・ 微生物分子機能学
【(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)】
- ※[]内は連携機関名



Research

その研究力で次代を切り拓く



Enhancement of Research

研究力を強化する



文部科学省による2013年度「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択

奈良先端大は、我が国トップレベルの研究力と人材育成の実績を戦略的に発展させ、最先端科学技術分野で、研究と人材育成のグローバル化を図り、世界をリードする新たな研究領域の開拓、多様な場でイノベーションを担う人材育成のための国際水準の教育システム構築等の改革を推し進め、世界に存在感のある研究大学院大学を目指します。

本事業は、「日本再興戦略」(2013年6月14日閣議決定)にも記述されている国の成長戦略に資するもので、(1)研究戦略や知財管理等を担う研究マネジメント人材(リサーチ・アドミニストレーター)群の確保・活用 (2)競争力のある研究の加速化促進 (3)先駆的な研究分野の創出 (4)国際的な研究環境の整備 などの集中的な研究環境改革を効果的に組み合わせた取り組みを実施する大学等の研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強することを目的としているものです。

今後、本学は、本事業も活用しつつ、世界に認知された教育研究拠点としての地位を確立するため、更なる研究力の向上とグローバル化を積極的に推進していきます。

物質創成科学領域

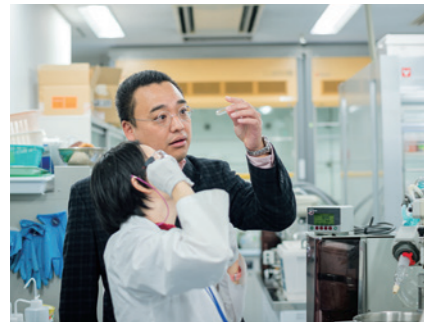
物質科学分野で世界的に評価される研究成果を挙げるとともに、次世代を担う創造性豊かな人材を養成



SDGsやカーボンニュートラルなどの現代社会の全人類の課題の解決には物質材料に関する科学技術の発展が不可欠であり、関連分野の先端人材も強く求められています。物質創成科学領域では、人類の未来に役立てる新しい素材、機能材料を開発するために、物質の仕組みを電子、原子、分子レベルに立って深く理解し、それに基づいて全く新しい物質や構造を創り出し、また、新規な機能を創造することを目指しています。“基礎なくして応用なし”という信念から、基礎科学指向の研究を重視するとともに、“応用なくして基礎はない”という事実から、応用指向の研究を奨励しています。

本領域では、物質科学分野で世界的に評価される研究成果を挙げるとともに、次世代を担う創造性豊かな人材を養成することを目的としています。具体的には、物性・デバイス・化学・バイオマテリアルズなど幅広い分野にマテリアルインフォマティクスなどの新しい概念を取り入れて新機能物質を設計・創成することで物質科学の深化を探索するとともに、社会課題の解決や革新デバイスに結び付ける先端テクノロジーへの展開を目指しています。

その研究成果は、新理論の構築、新現象の発見、新機能材料の創成、新技術の提供、革新的な装置の発明などとして結実し、私たちの未来を豊かにします。大学院生はこれらの先端研究に主体的に参画するとともに、体系だったカリキュラムを通してその素養をみがき、次代の産業界、学界の発展を担う創造性豊かな技術者・研究者としてグローバルな活躍が期待されます。



研究室一覧

- 量子物性科学
- 生体プロセス工学
- 物性情報物理学
- 光機能素子科学
- 情報機能素子科学
- 量子物理学
- 有機エレクトロニクス
- メソスコピック物質科学(連携)
[パナソニック㈱テクノロジー本部]
- 感覚機能素子科学(連携)
[㈱島津製作所 基盤技術研究所]
- 光反応分子科学
- 機能有機化学
- バイオ・テクノミメティック分子科学

- 機能高分子科学(連携)
[参天製薬㈱]
 - 環境適応物質学(連携)
[(公財)地球環境産業技術研究機構]
 - 先進機能材料(連携)
[(地独)大阪産業技術研究所]
 - 機能超分子化学
 - 分子複合系科学
 - ナノ高分子材料
 - マテリアルズ・インフォマティクス
 - データ駆動型化学(協力)
- ※[]内は連携機関名

若手研究者発掘・育成プロジェクト

意欲的な研究に挑戦する若手研究者に、テニユア・トラック准教授として、独立した研究者の地位と研究環境を与え、世界に存在感のある研究領域の創出を目指しています。

- 環境微生物学研究室

課題創出連携研究事業

本学と民間企業等が連携し、将来を見据えた社会的な課題の発掘から、個々の課題解決に向けた挑戦的な研究活動まで、連続的で異分野融合型の取組を展開しています。

課題を創出する段階から両者が連携することで、新技術の開発や新ビジネスを開拓し社会に貢献する新たな産学連携のスキームの創出を実現します。

- ダイキン工業株式会社
- 武蔵精密工業株式会社
- サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

若手研究者ネットワーク開拓ワークショップ

将来の科学技術の発展を担う国内外の若手研究者のネットワーク構築、本学における研究活動の展開やリーダーシップを発揮するための活動を目的として、本学では2015年度から「若手研究者ネットワーク開拓ワークショップ(旧名称:異分野融合ワークショップ)」を開催しています。国内外から若手研究者を招へいしてオープンなワークショップを開催するとともに、活発で深い交流を行うためのクロズドな議論を展開し、新たな研究領域の開拓を図ります。

2015年度～2021年度採択実績 26件

次世代融合領域研究推進プロジェクト

情報科学、バイオサイエンス及び物質創成科学のそれぞれの研究領域であっても、新しい研究領域や分野を開拓する意欲的な研究であり、将来、新しい融合領域の開拓が大いに期待できる研究推進プロジェクトを推進しています。

産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの実施等、産官学連携を積極的に推進しています。

こうした取組みの成果として、教員1名当たりの共同研究費や特許出願件数、ライセンス等収入などにおいて全国でもトップレベルの成果を挙げています。2011年度には、産業財産権制度活用優良企業等表彰(経済産業大臣表彰(普及貢献企業))を大学としては初めて受賞しました。

また、情報科学研究科(現・先端科学技術研究科情報科学領域)が中心となって採択された「グローバルアントレプレナー育成促進事業」(2014～2016年度)、2017年度からは「次世代アントレプレナー育成事業」を実施し、新しい価値を創造する人材の創出にも注力しています。

技術移転

大学の持つ知的資源(成果・技術・情報等)を社会に還元するため、本学の研究成果の技術移転を積極的に推進しています。

2007～2021年度

- 国内特許出願 529件
- 海外特許出願 449件
- ライセンス件数 398件
- ライセンス収入 3億55百万円

研究成果の商品化

- ①ハイパーイースト101(新里酒造)
- ②はなはな ハイビスカス酵母仕込み(神谷酒造所)
- ③尚 KAMIMURA(神村酒造)



高木博史教授らが開発した酵母(①泡盛酵母101H株、②ハイビスカス酵母C14株、③ハイビスカス酵母T25株)を用いて醸造した泡盛が、沖繩のバイオジェット社や各酒造所との共同研究により商品化されました。

リアチェン voice



※「リアチェン」はクリムゾンテクノロジー株式会社の登録商標です。
発話者の声を人声声優など予め登録された声に変換し遅延なく発信できる機能を実装したアプリケーションが配信されました。

Globalization

国際社会で活躍する人材育成

2014年度「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援対象機関に採択

奈良先端大は、先端科学技術分野で世界を先導する研究の推進と、世界の将来を担うグローバルリーダーの育成において、世界に確かな存在感を示し、世界から高く評価される大学を目指します。

本事業は、本学が培ってきた組織的教育力を背景としたグローバル人材の育成と、先端3分野の世界レベルの研究力を持つ教員が連携した教育改革、大学の機能強化、ガバナンス改革とを一体化した取組を特徴とする新しいプログラムです。

グローバルキャンパスの実現

本学では、グローバルリーダー育成のため、教育環境のグローバル化及びグローバル化教育に積極的に取り組んでいます。2022年4月1日現在では、295名、38か国・地域の留学生（うち133名が国費留学生）が在籍しています。多様な出身国や文化的背景を持つ学生及び教職員が共に学び、研究するグローバルキャンパスを実現するとともに、海外の教育研究機関との教育研究連携ネットワークの構築を進め、国際的な頭脳循環のハブとなることをめざしています。

国際共同研究ネットワーク

■ 本学の海外研究拠点

海外に研究拠点を設置し、本学の教員が常駐して共同研究を行っています。

- ・カリフォルニア大学デービス校(アメリカ) …①

■ 本学内の国際共同研究室

客員教授(海外研究者)の下で若手外国人研究者が研究を行っています。

- ・エコールポリテクニク(フランス)
- ・プリティッシュコロンビア大学(カナダ)

海外教育研究連携拠点

アジア地域における教育研究連携の拠点として2か所に海外オフィスを設置し、国際協働事業を推進しています。

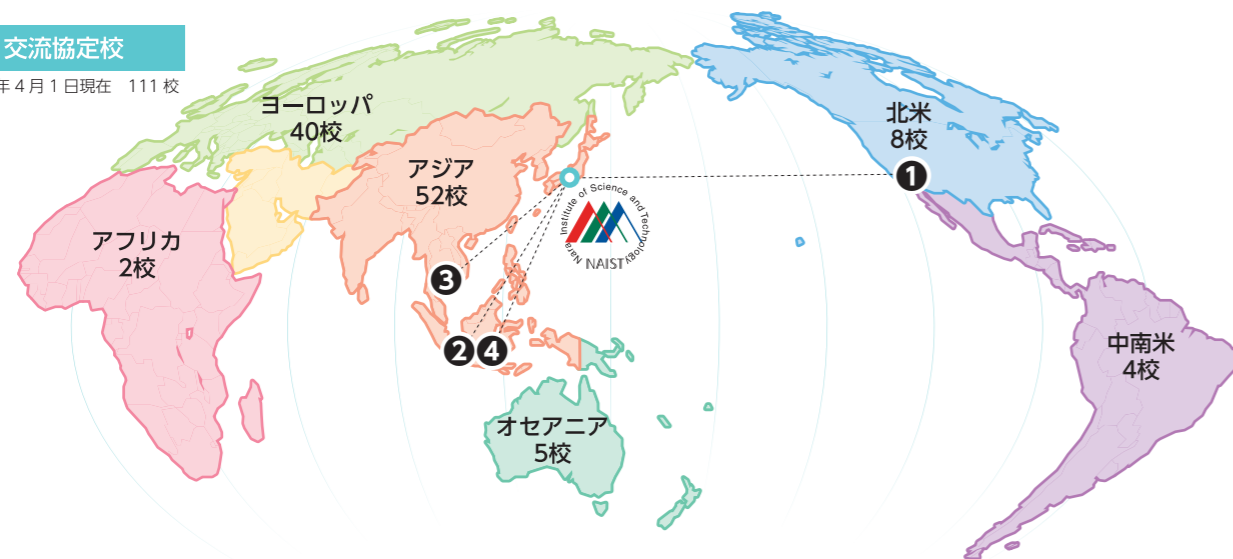
- ・NAISTインドネシアオフィス (IPB大学(旧名称:ボゴール農科大学)同窓会館内) …②
- ・NAISTタイオフィス(カセサート大学工学部棟内) …③

■ インドネシアにおける協働事業の実施

- ・UGM-NAISTコラボレーションオフィス (ガジャマダ大学バイオテクノロジー研究センター内) …④

交流協定校

2022年4月1日現在 111校



ダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムは、連携先の大学に同時に学籍を置き、両大学の教員から研究指導を受け、それぞれの大学から学位の認定を受ける制度です。現在、博士後期課程Dにおいて7大学、博士前期課程Mにおいて1大学との間でプログラムを実施しています。

- ・国立陽明交通大学(台湾) D
- ・チュロンコン大学(タイ) D
- ・カセサート大学(タイ) M
- ・ポールサバチエ大学(フランス) D
- ・パリサクレ大学(フランス) D
- ・ソルボンヌ大学(フランス) D
- ・ウルム大学(ドイツ) D
- ・マッコリー大学(オーストラリア) D

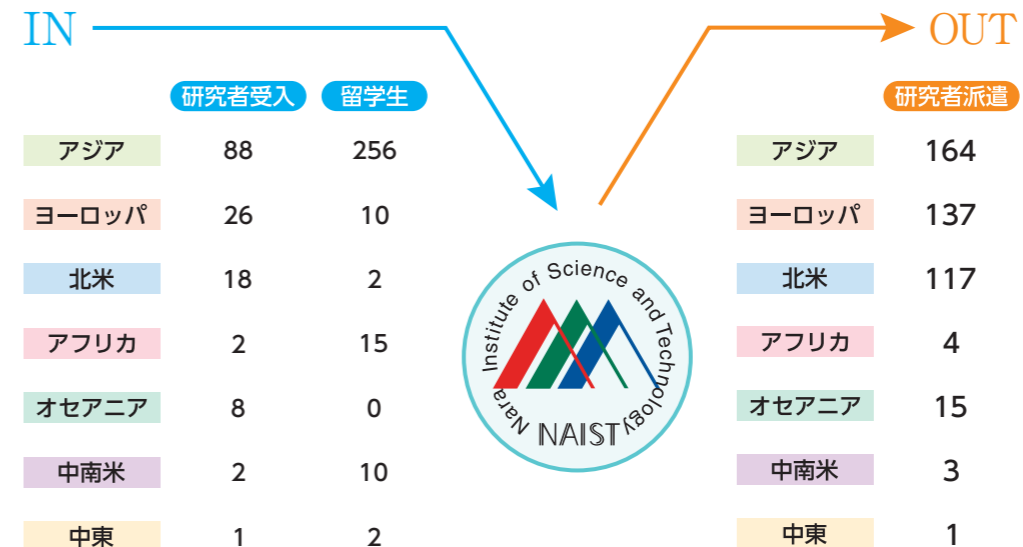
海外留学支援制度

本学と学術交流協定を締結している大学や研究機関を中心に1か月から数か月の期間、学生が海外の大学や研究機関に留学して海外語学・研究研修プログラムや海外研究インターンシップを実施しています。

留学生・外国人研究者支援センター

CISS: Center for International Students and Scholars

CISSは留学生や外国人研究者の日本や本学での生活をより充実したものにすため、本学の国際課と連携し、学業に関する手続きだけでなく、日常生活やその家族に関する様々な支援をしています。またCISSでは留学生アンバサダープログラムを運営しています。当プログラムでは、本学に在籍する先輩留学生による新入生へのサポートや学内イベントの企画・実施、本学のPR活動への参加などを通じて、本学の留学生が日本でもより豊かな経験が出来るよう支援活動を行っています。



研究者派遣: 2019年度実績
 研究者受入: 2019年度実績
 留学生: 2022年4月1日現在
 (単位: 名)

Facilities

奈良先端大を支える研究施設



総合情報基盤センター

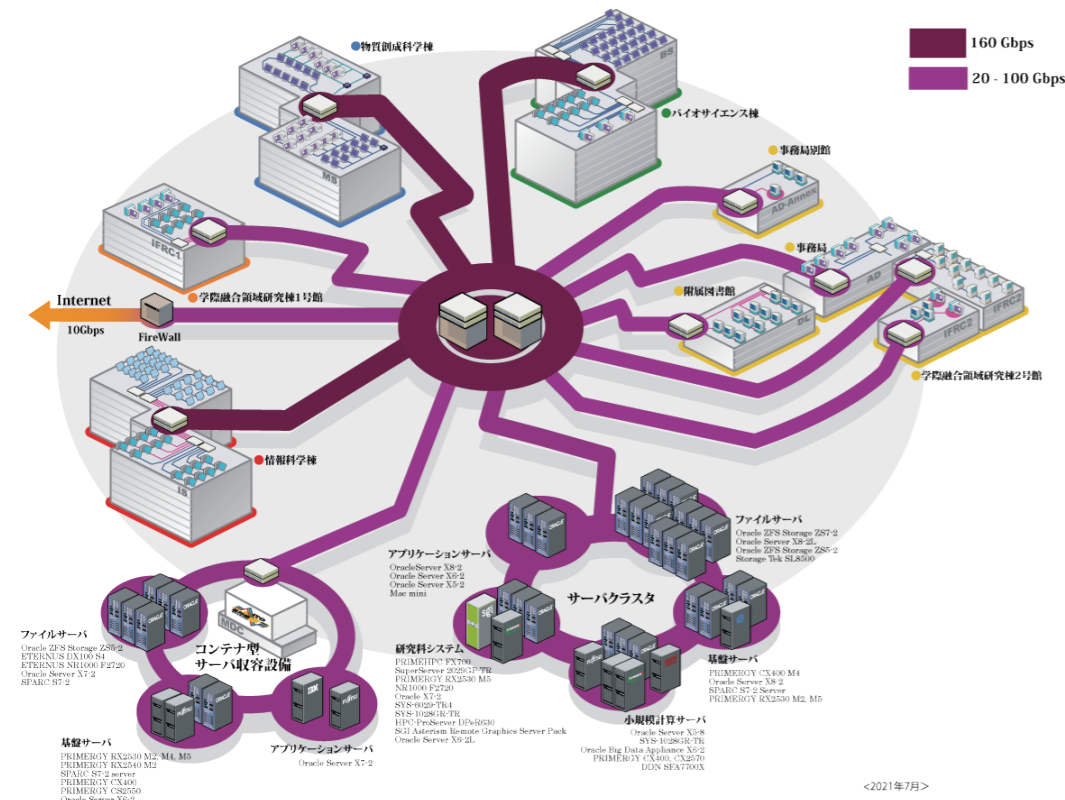
総合情報基盤センターは、本学の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。

■ 曼陀羅システム

本学では先端科学・技術に関する大学院大学の教育研究を支援するため、一元的に管理・運営されるコンピュータネットワークのもと、「曼陀羅システム」と呼ばれる全学情報環境が整備されています。

■ 曼陀羅ネットワーク

「曼陀羅ネットワーク」は曼陀羅システムの基盤を支えるネットワークです。曼陀羅ネットワークでは、幹線160ギガビット毎秒という世界最速レベルの環境を提供しております。また、キャンパス全域で450メガビット毎秒の無線LANも使用できます。インターネットにも対外10ギガビット毎秒の高速専用回線で接続しており、国内外の主要サイトと超高速通信が可能です。



附属図書館

附属図書館は、本学の教育・研究活動を支援するため「電子図書館」を構築し、授業ビデオや学位論文等の学術情報の電子化を進め、電子ブックや電子ジャーナルなど電子媒体による資料を整備することにより、時間・場所を問わない資料の提供を行っています。来館型サービスも実施しており、紙媒体の文献や視聴覚資料はもちろん、「マルチメディアラウンジ」等の新しいスタイルの学びの場も提供しています。また、他大学図書館・奈良県立図書情報館とも連携し、幅広いサービスの充実に努めています。



遺伝子教育研究センター

学内共同研究施設として放射線実験施設、動物実験施設、植物温室などの管理運営を行っています。

放射線実験施設では、全学のアイントープの安全管理と利用者への教育実習を行っています。動物実験施設では、小動物の飼育管理や利用者講習会を行うとともに遺伝子改変マウスの作製も行っており、動物個体レベルでの研究のサポートをしています。植物温室は、開放系と閉鎖系の温室を備えており、研究に必要な植物個体とトランスジェニック植物の管理などを行っています。最先端のバイオサイエンス研究を進めるために必須となるこれらの施設には、専門の技術職員が配置されており円滑な運営に努めています。

物質科学教育研究センター

物質科学教育研究センターは、物質科学分野に含まれる様々な先端科学技術における教育研究の共通項目である、「新規な機能物質の設計」、「物質の微細加工や制御複合化による新素材の合成」、「新物質・新材料の機能解析と評価」に関する教育研究と実験・実習を支援する共同教育研究施設です。国内有数の研究技術スタッフが利用技術講習、研究設備の整備や安全管理に対応しています。ほとんどの設備は、文部科学省「マテリアル先端リサーチインフラ事業」や「受託試験事業」などを通じて学外ユーザーの利用にも対応しています。



データ駆動型サイエンス創造センター

データ駆動型サイエンス創造センター(DSC)は2017年4月4日に創設されました。当センターでは、これまでの研究者の知識に基づき実験を行い、検証を行う仮説駆動型でなく、大規模なデータと人工知能技術によるデータ駆動型の新たなサイエンスを生み出す研究を目指します。具体的には、シミュレーション、データサイエンス、機械学習、人工知能などの技術を用いてマテリアルズ・インフォマティクス、ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクス分野、そして次世代の人工知能分野の新たな研究を目指します。さらに、産業界との共同研究、人材交流を行うことで成果の速やかな展開を行います。

データサイエンス部門

データ駆動型サイエンスの基盤的研究や人工知能(深層学習、推論モデル)を中心にデータ駆動型サイエンスの基礎となる理論を開拓します。

バイオインフォマティクス部門

分子生物学の発達で急増してきた生物学データの解析にデータサイエンスの手法を適用し、生命現象の統計的な解明とその応用を目指します。

国際教育研究連携部門

データ駆動型サイエンスに関する海外拠点の設置や国内外の有力研究機関との連携を強化し、教育研究における国際的連携を推進します。

マテリアルズ・インフォマティクス部門

データ駆動型の手法を物質創成科学に適用し、プロセスまで含めた新材料の探索や新規機能開発を行います。

社会実装部門

産官学連携により、データ駆動型サイエンスの研究成果の社会的な実装と活用への積極的な取り組みを行います。

デジタルグリーンイノベーションセンター

デジタルグリーンイノベーションセンター(CDG)は、2021年1月1日に設立されました。本学が世界に誇るバイオサイエンス研究を基盤に、AIやIoTなどのデジタル情報技術およびナノセンサーやエコデバイス・マテリアルなどのデジタルI/O技術を融合することで、社会的課題である次世代デジタルグリーン科学技術の創出、環境や社会に負担の少ないバイオ/グリーンエコノミーの実践、世界共通の目標であるSDGsの達成に寄与するイノベーションとそれらを担う人材育成を推進します。

デジタルグリーンイノベーション部門

デジタル技術を駆使して、グリーンイノベーションに貢献しうる学際融合領域研究を創造・先導・発信し、その成果に基づく教育を行います。

バイオエコノミー部門

デジタル技術を駆使したグリーンイノベーションを基盤とし、バイオ/グリーンエコノミーに向けた文理融合の教育と研究を産官学連携で行います。

国際連携部門

海外連携大学と協同で、デジタルグリーンイノベーションに関する国際的な教育研究を推進します。



地域共創推進室

2021年4月1日に地元金融機関の株式会社南都銀行と共同で創設されました。当室は、産学官金の連携を強化し、地域課題の解決とイノベーションの創出を図ることを目的としています。地元自治体との連携協定を締結し、また、関西経済連合会や京都クオリアフォーラムなどの公益団体の一員としての活動を行うとともに、ワークショップ等を開催し企業のニーズと研究者のシーズとのマッチングを図るなど、積極的な活動を展開しています。



男女共同参画室

性別等の属性に関わらず教職員及び学生の可能性と多様性を尊重する取組の推進、教職員及び学生のワークライフバランス向上を目的としています。スタートアップ研究費の助成、研究支援員の配置、出張時保育支援、ニュースレターの発行等を行っています。学内には、女性休憩室、乳幼児連れのための多目的スペース、一時託児室があります。

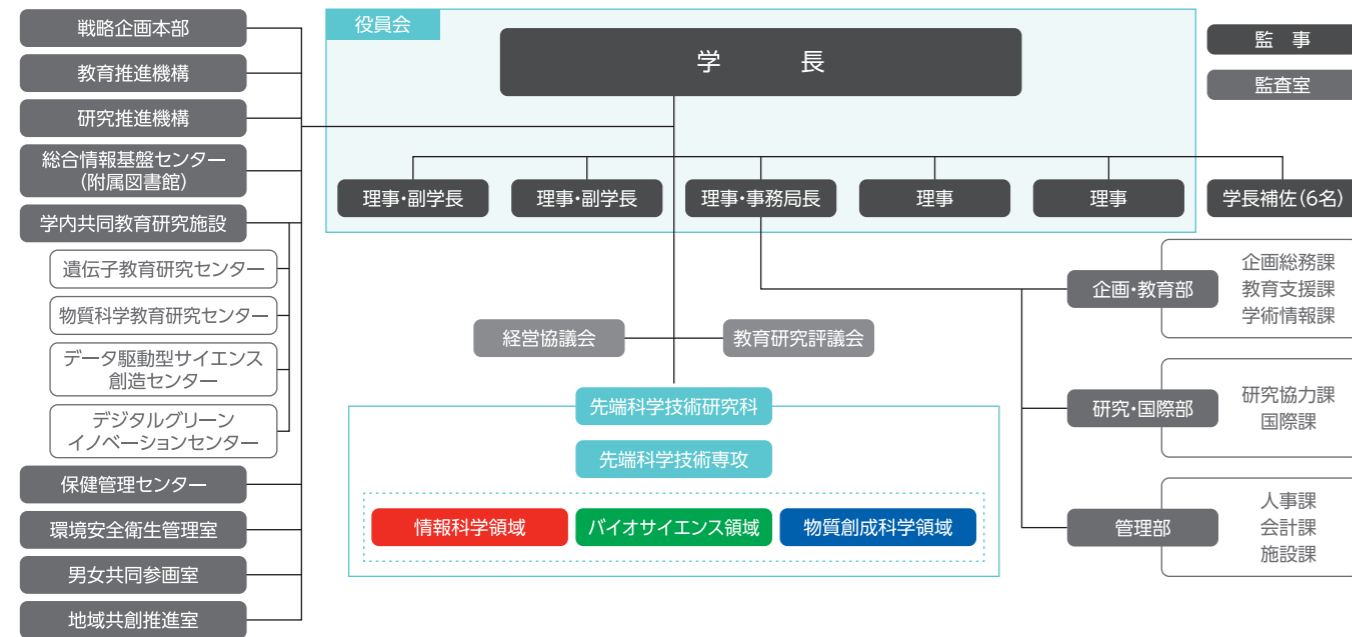
保健管理センター

学生及び教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師、看護師及び英語対応可能なスタッフが常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、談話室、休養室を設けています。

Organization & Finance

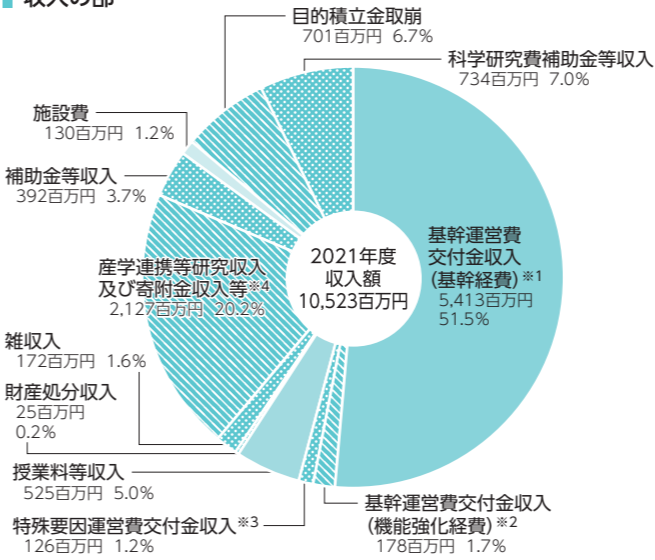
組織と財務

組織

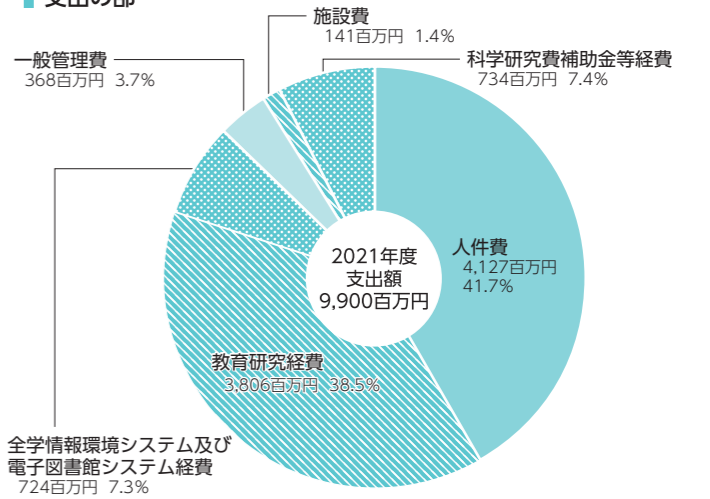


財務状況

収入の部



支出の部



※1 基幹運営費交付金収入 (基幹経費)のうち323百万円は前年度からの繰越によるもの
 ※2 基幹運営費交付金収入 (機能強化経費)のうち2百万円は前年度からの繰越によるもの
 ※3 特殊要因運営費交付金収入のうち38百万円は前年度からの繰越によるもの
 ※4 産学連携等研究収入及び寄附金収入等のうち188百万円は前年度からの繰越によるもの

教職員数、教員構成

教職員現員 (2022年5月1日現在)

海外研究機関や企業等での経験を持ち国際的に活躍する教員スタッフ陣を擁しています。企業・研究機関など大学以外での研究歴がある教員スタッフも多数在籍し、基礎研究から応用まで幅広い視点での研究・教育に取り組んでいます。

本学の、多様性を許容するオープンな学風を支えており、融合領域の研究や産学連携など、さまざまな分野で研究を推進しています。

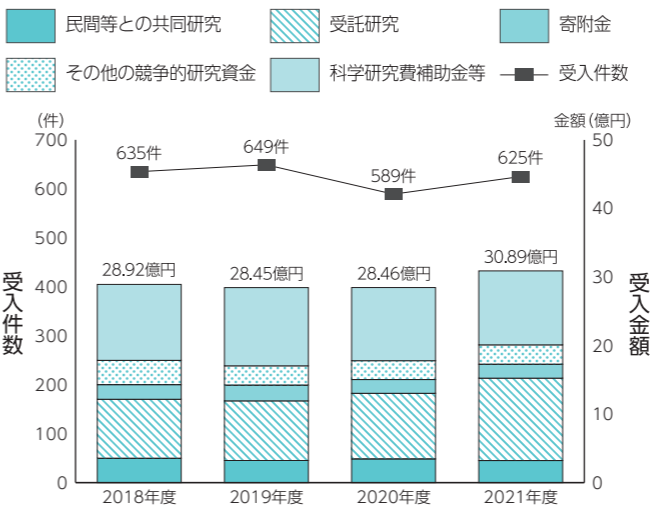
(単位:名)

学長	理事及び副学長	監事	教員					事務職員等	合計
			教授	准教授	助教	助手	計		
1	5 (2) [40.0%]	2 (1) [50.0%]	54 (3) [5.6%]	46 (3) [6.5%]	103 (21) [20.4%]	2 (0) [0%]	205 (27) [13.2%]	173 (62) [35.8%]	386 (92) [23.8%]

※ () は女性数を内数で示し、[] は女性の割合を示す。

外部資金受入状況

(2022年3月31日現在)



		(単位:億円)			
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
民間等との共同研究	受入金額	3.55	3.23	3.46	3.22
	件数	201	219	186	218
受託研究	受入金額	8.62	8.70	9.58	12.02
	件数	101	92	89	96
寄附金	受入金額	2.13	2.28	2.00	2.02
	件数	106	102	81	72
その他の競争的研究資金	受入金額	3.54	2.83	2.75	2.84
	件数	10	12	12	12
科学研究費補助金等	受入金額	11.08	11.41	10.67	10.79
	件数	217	224	221	227

若手研究者を育て全国へ送り出してきた実績

※ 2010年4月1日～2022年3月31日の異動状況

准教授の異動状況



助教の異動状況



Campus Map

キャンパスマップ



Campus Map

関西文化学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備



- ⑧ バイオサイエンス棟
遺伝子教育研究センター
- ⑨ 動物飼育実験施設
- ⑩ 植物温室
- ⑪ 物質創成科学棟
物質科学教育研究センター
- ⑫ バイオナノプロセス実験施設
- ⑬ 学際融合領域研究棟1号館
データ駆動型サイエンス創造センター
デジタルグリーンイノベーションセンター
- ⑭ 学生宿舎・職員宿舎
- ⑮ グリーンラボ
- ⑯ 正門
- ⑰ 事務局別館

土地

- 131,627㎡

建物

- 建面積 27,668㎡
- 延面積 100,021㎡

- ① 事務局
- ② 附属図書館 (電子図書館)
- ③ 大会館・保健管理センター
- ④ 学際融合領域研究棟2号館
- ⑤ ミレニアムホール
- ⑥ ゲストハウスせんたん
- ⑦ 情報科学棟
総合情報基盤センター

宿舎

本学では、709戸の学生宿舎を用意しています。学生宿舎へ入居することが、十分な研究時間の確保と経済的な負担の軽減の一助となっています。

24時間体制で研究活動をサポートするため、宿舎にいながらでも、附属図書館や国内外の学術研究機関のネットサービスを利用できるネット環境を提供しています。



単身用宿舎居室



シェアタイプ宿舎居室

ゲストハウスせんたん

本学へお越しになる国内外からの研究者をはじめ、学生や教職員にも利用いただける宿泊施設です。キャンパス内に位置しているため、本学の各施設へのアクセスも良く、各居室にはミニキッチン等も備え付けられているため、快適な滞在期間をお過ごしいただけます。また、建物内には集会施設が設けられており、各種ミーティングや楽器練習等、様々な目的で利用いただくことができます。



高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、屋内には科学に触れる「サイエンスランド」、屋外には、大きく映し出されたアインシュタインの顔やニュートン、野口英世など8人の偉大な科学者の幼少時代の像がならぶ「サイエンティスト・ランド」という広場があり、子どもたちが科学に接する環境を提供しています。



高山サイエンスプラザ

奈良先端科学技術大学院大学支援財団 (高山サイエンスプラザ内)

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。同財団の基本財産 (20億円) の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動に対する支援事業等が行われています。

リエゾンオフィス

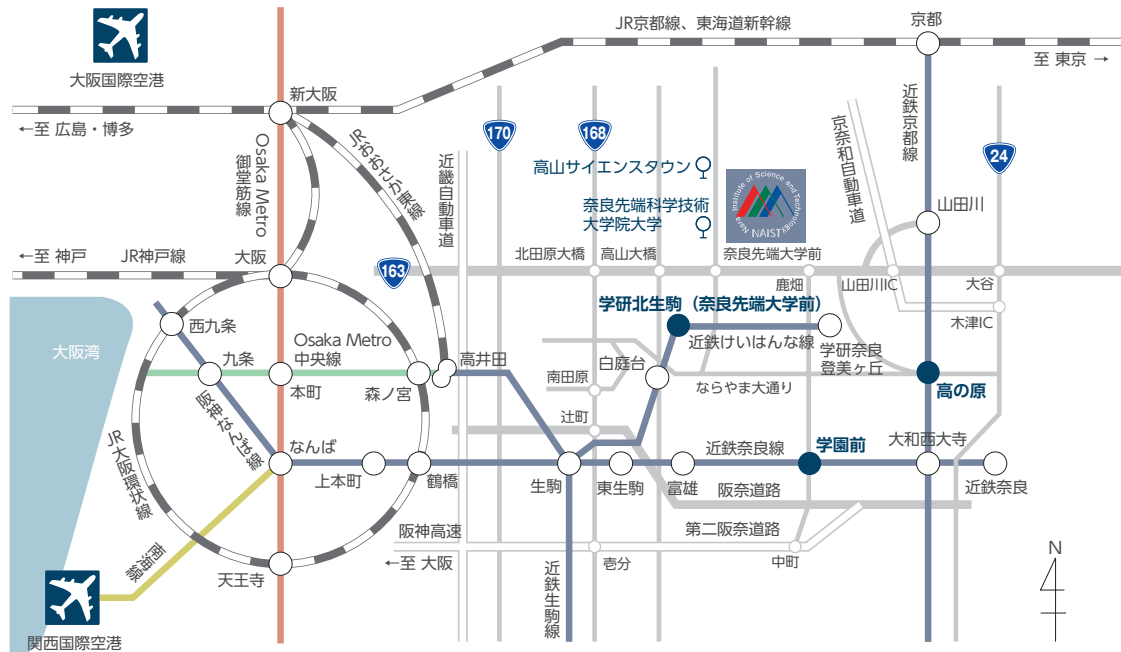
本学では、地域との連携を深めるため、中小企業の街・東大阪市にリエゾンオフィスを設けています。



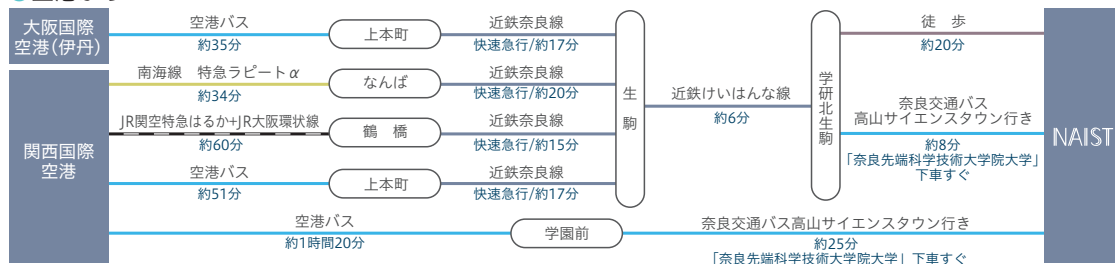
東大阪事務所



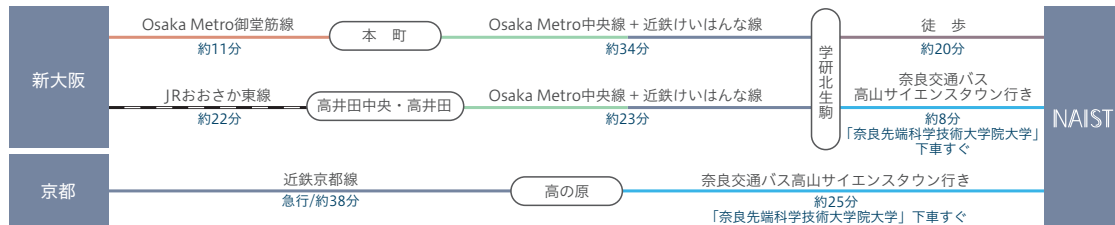
奈良先端科学技術大学院大学は、けいはんな学研都市 (正式名称: 関西文化学術研究都市) の中核を担っています。産・官・学の密接な連携のもと、創造的かつ国際的・学際的な文化・学術・研究・産業の新たな拠点づくりをめざしています。



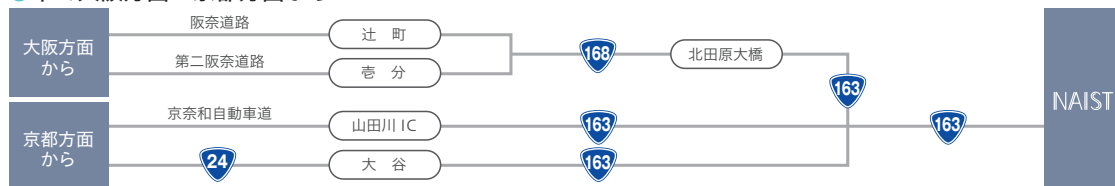
● 空港から



● 電車で新大阪・京都から



● 車で大阪方面・京都方面から



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
 NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY



〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5 (けいはんな学研都市)
 TEL: 0743-72-5026 / FAX: 0743-72-5011
 E-mail: s-kikaku@ad.naist.jp



website
<https://www.naist.jp/>



twitter
https://twitter.com/NAIST_MAIN



facebook
<https://www.facebook.com/naist.jp>